

博士課程教育リーディングプログラム 平成28年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	山形大学	申請大学長名	小山 清人
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	大場 好弘
整理番号	002	プログラムコーディネーター名	飯塚 博
プログラム名	フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

山形大学理工学研究科では、新たな価値を創成し、各方面において地域及び国際的に活躍が出来、将来的に国際標準化を勝ち取る国際的企画コミュニケーション力を兼ね備えたリーダーとなれる高度職業人及び研究者を育成しようと改革を進めている。

本プログラムでは特に下記4つの資質をバランス良く備える人材を育成しようとしている。

- 1) エネルギーや環境に対する高い問題意識と地球規模の福祉増進を目指す未来志向の使命感にあふれる人材
- 2) 有機材料工学を主とし電気電子工学、システム工学（基礎と応用）の基盤知識を備えた高度な専門性を駆使できる人材
- 3) 科学的視点と経済的視点、ミクロな視点とマクロな視点などの複眼的思考を持ち価値創成実践力を兼ね備えた人材
- 4) 国際交渉に臨めるグローバル企画コミュニケーション力を兼ね備えた人材

本学では平成22年度に日本初のフレックスコースシステム創成工学科を工学部に立ち上げ専門性に特化せず、より広いバックグラウンドを持つ人材育成を進めている。本プログラムは同科と連携した教育が可能となる。

2. プログラムの進捗状況

実施・運営体制の状況：

平成27年度に構築した体制での運営を開始し、効率的かつ効果的な運用を行った。さらに学生数の増加や初の修了者が出る平成29年度の活動に備えて、産総研からの産学連携教授の任用や女性助教の採用など人員を強化した。また、平成29年度の修了に向けたECEを始め体制ならびに規則などの整備をほぼ完了した。さらに、プログラムの定量的評価のために、学生および指導教員からのアンケートを行った。その結果、研究力などの創造性のみでなく、主体性を本プログラムでは大幅に伸ばしていることが示された。

構想・計画の状況：

これまで本プログラムのみを開講していたキャリアデザインセミナーを、有機材料システム研究科の一般学生にも開放した。科目の改善を行った上で、同科目をはじめとする複数の科目が、有機材料システム研究科の修了要件を構成する科目となった。これらにより、本プログラムの教育内容の学内展開が大きく進んだ。

創造性と実践性を養うために、SRIインターナショナルによる集中研修（九州大学と合同）ならびにフィンランド・アアルト大学との合同ワークショップを開催した。

本プログラムへの理解を広げるための広報を積極的に行い、特に東洋経済誌への掲載ではWeb掲載記事の閲覧数が日本語英語併せて1ヶ月で3,000万を超えた上でモニターの高い評価が得られるなど、本プログラムの認知度を上げることができた。

留意事項等への対応：

入コース生の減少に対応し、高専訪問や学内広報を強化した結果、平成29年度入コース生の募集において12名の受験生が有り、10名の優れた学生を獲得できた。さらに修了後のキャリアパスの明示に向け、キャリア支援企業によるセミナーを行ったほか、冒頭で述べた人員の増強を行った。